

葉栗連区

令和3年8月

地域づくり協議会だより 58号

発行日：令和3年8月1日 発行者：葉栗連区地域づくり協議会

一宮市大毛字南出120番地（葉栗出張所内） 電話：28-9001

☆ 葉栗中学校2年生が伝統行事の田植えを実施 ☆

6月9日（水）に葉栗中学校の伝統行事である「田植え」を行いました。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、2年生を2つのグループに分けて行いました。生徒たちはぬかるんだ田んぼに足を取られながらも、笑顔いっぱい田植えに取り組むことができました。

立派に育つようにと願いを込めて植えた苗が順調に生育し、見事な稲穂が実ることを生徒たちは楽しみにしています

今後は、収穫できたもち米で「祝い餅あられ」や大きな「卒業祝い鏡餅」をつくり、3年生の卒業に花を添える予定です。

なお、「祝い餅あられ」は全校生徒に配布します。ご家族で中学校生活のことを話題にしながら、一緒に召し上がっていただけると嬉しいです。

また、PTA総務委員、学校サポーターをはじめ、地域や保護者の方のご協力のおかげで、無事に田植えを終えることができました。

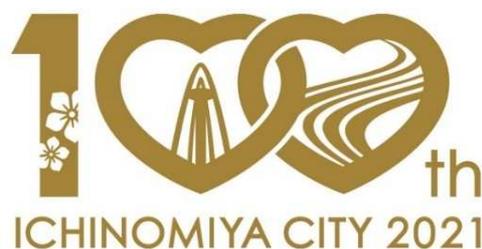
今年度も、田の管理や田植え・稲刈りの指導をJAさんにご協力いただきます。

皆様のお心配りに心より感謝いたします。ありがとうございました。



《寄稿：葉栗中学校》

いちばん
だいすき。
一宮



☆ ペアふれあい遊び 葉栗北小学校 ☆

5月7日（金）に1・6年生、2・5年生、3・4年生のペア学年でふれあい遊びを行いました。新型コロナウイルスの感染症対策を意識して、ペア学年で2つずつ遊びを考えました。今年度初めてのペア交流のため、最初は緊張していましたが、徐々に打ち解けていき、楽しく活動することができました。

【1・6年生】

初めに「新聞乗りじゃんけん」を行いました。じゃんけんに負けると、足元の新聞紙を半分の大きさに畳んでいき、新聞紙の上に乗っていることができなくなったら負けです。じゃんけんに勝つ運の強さとバランス感覚が必要です。後半は、「じゃんけん電車」を行いました。



＜新聞乗りじゃんけん＞



＜落ちた、落ちた、何が落ちた！＞

【2・5年生】

「落ちた、落ちた、何が落ちたゲーム」をしました。果物・爆弾・雷のアクションがあり、言われた言葉に合わせて素早く動作をします。

特に、雷と言われてへそを隠す動作で盛り上がりました。

「全身で あっち向いてホイ！」もしました。舞台上の代表者と違う動きをしないといけません。が、つい同じ動きをしてしまい、アウトです。



＜じゃんけん足開きゲーム＞

《寄稿：葉栗北小学校》

【3・4年生】

「じゃんけん足開きゲーム」をしました。

ペアとじゃんけんをして、負けるたびに足を左右に開いていきます。じゃんけんの強さと股関節の柔らかさが大切です。

次に、「反応拍手」もしました。ペアの子の両手が重なった時に手をたたきます。相手の手の動きをよく見ながら、つられないように集中して頑張りました。

＜お知らせ＞

連区敬老会事業において、「地域買物券」の配布を考えています。

「地域買物券」利用にご協力いただける葉栗連区内のお店を募集しています。

ご協力いただける場合は、**8月6日**までにご連絡をお願いします。

【問合せ・申し込み先】

社会福祉協議会葉栗支会事務局（葉栗出張所内）

石原 ☎28-9001



☆ 一宮市消防音楽隊の演奏会 葉栗小学校

6月22日(火)に消防音楽隊の演奏を鑑賞しました。コロナ禍で、生演奏が聴ける貴重な体験でした。

吹奏楽部で使っている楽器を教えてもらったり、手拍子を打楽器に見立てて、子どもたちが演奏に参加できたり、「パプリカ」の曲に合わせてボディーパーカッションをしたりと、消防音楽隊の迫力ある演奏を楽しく鑑賞することが出来ました。

今後も機会あるごとに開催したいと思っております。消防音楽隊の皆さん、ありがとうございました。



<葉栗小学校 6年1組 眞野 優羽>

新型コロナウイルスが感染拡大している中、消防音楽隊の皆さんがクラシックや、みんなが知っているような曲など、幅広いジャンルの曲で楽しませてくださり、とても感謝しています。

また、演奏を直接聴くことで今まで以上に音楽が好きになった児童が多く、自分も消防音楽隊の皆さんと音楽を楽しむことができ、さらに音楽が好きになりました。

皆さんの演奏がそろっているのを聴き、皆さんの心が一つになっているのを感じました。音楽を通じて、一人一人が一つになっていて心にとっても響きました。

この行事を通して、助け合うこと、協力することの大切さが改めてわかりました。

ぜひ、また一緒に音楽を楽しみたいです。

《寄稿：葉栗小学校》

一宮市の花：桔梗（キキョウ）

花言葉は「永遠の愛」「変わらぬ愛」「気品」「誠実」

平成18年(2006)7月25日に市民投票によって決定しました。

秋の七草の一つにも数えられ、6月～8月に青紫・紫の花を咲かせます。(ピンク・白もあります)

「吉」に「更」、縁起の良い花とされています。

街じゅうを桔梗の花で飾り、市制施行100周年をみんなで祝いましょう!!



**市制施行 100周年
桔梗の花を咲かそう!!**

郷土の戦国武将



兼松 正吉(かねまつ まさよし)①

愛知県で有名な戦国武将といえば、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康ですが、ここ一宮市島村が生家の武将 兼松正吉（以下正吉）という方を皆様ご存知でしょうか。

正吉は、初め織田信長に仕えた後、豊臣秀吉、豊臣秀次、徳川家康、徳川義直にと順に仕えていきました。世の情勢を見極めることに長けていたからこそ、多くの戦国武将に仕えることができたと思います。仕えることができたのは、例えば「大坂冬の陣」の折、73歳の高齢であったにもかかわらず、徳川義直のお供として出陣しました。それだけ信頼が厚かったからに他なりません。

そんな正吉の生涯の一端を紹介いたしましょう。

正吉は、天文11年(1542)尾張国葉栗郡島村にて兼松清秀の子として誕生しました。通称は又四郎といいます。正吉の現御子孫は島村字上深田の兼松正美氏（平成30年度葉栗連区長）ですが、兼松家の先祖は家系図によると飛鳥時代の藤原鎌足にまで遡るといいます。

現在の地に兼松家が定着する以前は、越前国足羽郡兼又村であったようです。

正吉は最初、下級武士でしたが、1560年の「桶狭間の戦い」の初陣で戦功を挙げたところ、信長に認められ、その後信長の馬廻衆として活躍しました。

1573年8月朝倉義景との「刀根山の戦い」において、敵の首をとって信長の御前に参上したところ、正吉は裸足で山中を駆け回ったため、足が血に染まっていました。そこで信長は正吉の功績をたたえ、信長が日頃から携帯していた足半（あしなか）を与えました。足半とは草鞋（わらじ）の前半分だけで、かかとの部分がない草鞋のことです。主に山を攻め登る時に足半を履いていたようです。

正吉は信長から頂戴した足半を家宝として子孫に伝えており、現在は名古屋市秀吉清正記念館（名古屋市中村区）に保管されています。



兼松正吉画像



織田信長拝領の足半^{あしなか}